

## 青果物フォーラム AIは未来への鍵か

FRUITNET 2024年2月27日

### 青果物フォーラムのオープニングセッションは人工知能の潜在的な影響について検討

今年のフルーツロジスティカ(Fruit Logistica)展示会の青果物フォーラム(Fresh Produce Forum)のステージは、小売業者や消費者の行動の様々な段階がAIにどう関係するのか、またまったく新しい環境の下でそれらをどのように統合できるのかについての検討で開幕した。

GS1 Germany(国際流通標準化機関のドイツ組織)のイノベーション専門家であるポーリン・ドロット博士は来場者に対し、人工知能はすでに普及しており、その可能性は「エキサイティング」であると同時にある程度「恐ろしい」ものであると語った。

プレゼンテーションで同氏は、コンピュータの能力向上とビッグデータの存在により、このテーマへの関心が急速に高まり、それはGen AIやChatGPTなどのアクセス可能な要素の導入によって加速されたと述べた。

同氏によると、AIツールは我々がAIに何を求めているのかをますます理解し、「AI直感」と呼ばれる段階が始まり、人工知能の利用が増えた結果として人工知能の一般的な認識力が向上した。

同氏は、品質管理と検査、サプライチェーンの最適化、シーズンごとの予測、作物の生育状況等の監視、食品廃棄物の削減など、AIが食品セクターに利益をもたらす可能性のあるいくつかの主要分野について概説した。

一方、メタバース(仮想空間)は今後10年間で成熟し、よりアクセスしやすくなり、新しいビジネスチャンスを開くだろうと同博士は述べた。

同博士は「疑問は残る。未来はどうなるのか」と問いかけ、「AIが環境分野のほか倫理や認証の分野にも進出すると見られるため、非常にエキサイティングなものになると思う。人工知能との『スマートな対話』が必要であり、倫理的な側面を無視してはならない。社会の利益のために使われることを願っている。エキサイティングと言う以上のものだ」と語った。

### AIの活用

セッションの2番目の登壇者であるAMフレッシュグループのパトリシア・サガーミナガ氏は、世界的な青果物専門業者である同グループが、自然交配による新品種の開発などで、AIをどのように活用しているかを説明した。同氏は、「弊社はまた、機械学習、デジタル化、ロボット工学を駆使して、小売店に届く農産物が最高品質であることを確保している」と述べた。

同社は、消費者と小売業者から得られた洞察を理解し統合するのを支援するための5つのプラットフォームを開発しており、そのすべてが機械学習、ビッグデータ、AIアプリケーションを使用している。

それら5つとは、技術革新と消費者に関する洞察のプラットフォーム「Fresco」、ブランド開発・カテゴリ拡張ツール「Ignite」、取引先小売業者をPOSで支援する「Regroop」、包装の最適化に焦点を当てる「Freshly Packed」、柑橘類のブランドコミュニケーションと消費者との交流プラットフォーム「Media Naranja」である。

同社はまた、AIを利用して消費者とサプライチェーンの始まりである産地を結び付け、生産者のストーリーを伝え、消費者の体験を向上させることも目指している。

同氏は、「我々は青果物ビジネスを高めることができる。それは素晴らしく、魅力的で、インスピレーションを与える分野であり、それを消費者に結びつけ、消費者にとって意味のあるものにすることができれば、それは価値のあることだ。もしAIを使ってそうしたトレーサビリティをつなぎ、店舗から農場まで遡るストーリーを結び付けることができれば、それは成功である」と語った。